

世界人口の急激な増加に伴い、世界的な食料増産が急務とされています。一方、国内では、農山村の活性化や、食糧自給率の向上、食の安全・安心、人と自然との共生など、多くの課題が山積しています。農学には、以上のような問題に対峙しつつ、人類の生存と福祉に貢献することが求められています。

鹿児島大学農学部は日本で有数の食料基地に位置しており、こうした社会の期待に応えるために、自然に調和した食料生産技術の開発、生物機能の解明と食の安全性確保、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化などに関する教育研究に取り組み、バイオテクノロジーなどの最新技術を取り入れた研究を展開しています。

今年度は、これらの目標に沿った教育を、より強固で実効性のあるものにするために、旧3学科を新たに改組し、農業生産科学科、食料生命科学科、農林環境科学科として再出発したところです。これらの新しい3学科に、昨年発足した国際食料資源学特別コースを加えた4本の柱を基礎にして、今後もグローバル化を見据え、学部から大学院（修士課程）まで連携した教育改革を迅速に進めていきます。



（農学部長 岩井 久）